

大学院入試

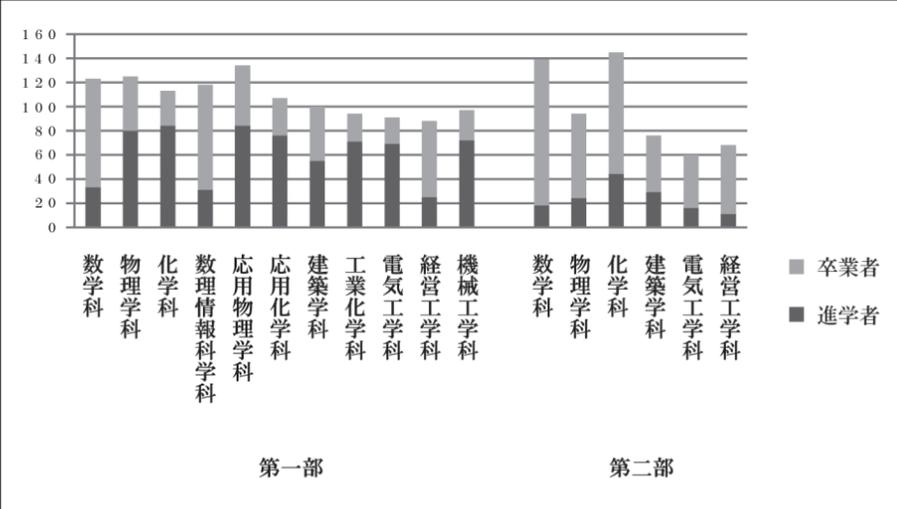


毎年多くの本学生が大 大学院に進学するのをご存 知だろうか。理系の大学だ から進学率が高いという こともあるが、それでも他 の理系大学と比べても高 い方だろう。そこで今回は 大学院進学に関する詳し い事柄をもっと知りたい 3、4年生や、興味はある がまだまだ先のことで大 学院のことがよくわから ない1、2年生のために、 大学院や院試について説 明する。

大学院は学部と比べ専 門的なことを学ぶところ であり、修士課程と博士課 程の二つの課程がある。博 士課程では修士課程より も専門分野に深く携わっ ていくが、一般的な企業で は博士課程の学生は専門 的過ぎ、修士課程の学生の 方が好まれる傾向にある。 しかし、深い知識を持った 博士課程の学生を必要と する職種もあるため、自分 はこういうことを研究し たいと思っている人や、研 究者になりたいという夢 がある人は博士課程を選 択したほうが良いだろう。 大学院に進学する上 で必ず受けなければいけ ない一般入試と推薦入試 についてだ。

一般入試は大学院に よって異なるが、その多く は夏に行われ、筆記試験と 面接で合否を決める。筆記 試験は専攻によつて科目 が変わるが、本学では英語 と専門科目の2科目受験 してきたかや、何を頑張っ ているかという点を明 瞭に説明する力をつける ことも重要だ。面接は研究 室によって質問内容が異 なってくるので、早い時期 から自分の行きたい研究 室を決めて研究内容など を十分に調べる必要がある。さらに本学の研究室を 受験する場合は、その先生 の授業の成績も大切だ。そ のため、良い成績を取ら れるような平日頃からの 勉強が大切になるだろう。

一方、推薦入試は一般入 試と違い、出願するのに 条件がある。一定の成績を 満たさなければ出願でき ないので、推薦入試を考え ている本学生は早いうち から良い成績をとらなけ ればならない。学科によつ ては成績優秀者の上位数 人は筆記試験が免除され て面接だけで済むところ もある。そのため、1年次 から良い成績を目指すだ けではなくて上位を取る つもりで勉学に望んだほ うが良いだろう。



▲平成23年度 学部・学科別大学院進学率

東京理科大学大学院	1,481	北海道大学大学院	8
東京大学大学院	111	大阪大学大学院	8
東京工業大学大学院	108	京都大学大学院	5
筑波大学大学院	26	慶應義塾大学大学院	5
早稲田大学大学院	19	その他の国公立大学大学院	62
東北大学大学院	12	その他の私立大学大学院	24
首都大学東京大学院	11	海外の大学院	1
名古屋大学大学院	11	大学院進学者合計	1,892

▲主な進学先 (平成23年度卒業生)

大学院を目指している 人の中には本学の大学院 には進学する人も多く、昨 年度卒業した本学生の進 学先は東京理科大学で 111人と最も多く、次に 多いのが東京工業大学大 学院の108人だ。他大へ の進学者が100人を超 えるのはこの二つの大学 院だけで、他大の大学院 に進学する本学生の半数以 上である。その理由として は国立大学の大学院の方 が私立大学の大学院より 学費が安く、より良い設備 が整っているなどが挙げ られる。学部別で見ると工 学部のある他大の大学 院に行く傾向があるのは、 そのような理由があるか らだろう。

本学生の中にはもうす でに大学院に進学する気 はなく、就職をすると決

めている人も多だろう。 学科によつては大学院に 進学するより、就職する 割合が高いところもある。 例えば数学科などでは教 師を目指す人も多く、専門 的な知識を付けなくとも 就職をすることができ る。就職もあるから、しか し、就職をしようと決めた 人でも大学院や院試につ いて知っておいて損は ない。毎年、就活がうまく いかず猶予期間として大 学院に進む人も少なから ずいるからである。近年 は就職氷河期とも言われ 簡単には就職できない時 代である。大学院に進学し て専門的な知識を蓄えて 企業からより必要とされ る人間になってから就活 するのも一つの手だろう。

Q 大学院に進むと決めた のはいつ頃ですか。
A 推薦がもらえたとわ かった段階で決めました。 推薦で大学院に進めるとい うこともあり、筆記試験は 無く面接のみだったので、 院試の勉強はあまりしませ んでした。工学部は推薦の 枠が多く、大学院に進む環 境が整っていたので助かり ました。

Q 学部時代と現在で、勉 強の仕方は変わりました か。
A 勉強に対するスタンス は、大きく変わりましたね。 学部時代は良い成績を取ら なければならぬので、そ のために勉強をしていまし た。それに対し、大学院に 進んでからは取らなくてはい けない単位が少なく、自

身の近くで言えば、以 前のCDは音が飛んだり 果を出すが重要になって きました。そのため、学部時 代以上に自分で意識をして 勉強をするようになりました。 研究をするときに、自 キュリティです。他には、 分が既に知っている内容を 最大限に生かさないといけ ないのでは、それは自分との 闘いですね。

Q 普段はどのように過ご されていますか。
A 勉強や研究だけだと息 が詰まるので、勉強と遊び が半々ぐらいです。でも、 大学院に進んでからは誰に 言われるわけでもなく、気 がつくところに向かっている ということが多くなりました。 知人には、平日は勉強 をし、休日は遊ぶと分けて いる人もいますが、私の場 合はあまり曜日の感覚はな いですね。工学部は進学率 が他学部と比べて高いの で、研究室のメンバーはほ とんど変わりがありません。 みんなで仲良く研究したり、遊 びに行ったりもします。ま た、アルバイトのある日は その時間まで遊んでいま す。毎日研究室に行く人も いますが、私の場合は研究 室に行くのは週3日ほど で、午前10時に行き夜に帰 ります。

Q 大学院ではどのような ことを研究されています か。
A 今は情報セキュリティ を専門に勉強しています。 身近なところで言えば、以

し、企業に就職する際の扱 いが修士課程修了と同じ になる場合が多く、リスク が高いからです。そのた め、修士課程修了後は企業 に入って開発や研究がし たいという思いの方が強 いですね。まだ悩んでいま すが、卒業後は大学院での 研究を生かせる仕事をし たいので、鉄道や電力、通 信といったインフラの仕 事を視野に入れています。

Q 理科大生に何かアドバ イスを頂けますか。
A 勉強をする上で、1年 生という時期は本当に大 切だと思っています。1年生は 基礎となる科目が多いで すからね。ただ、自由な時 間があるのも学生の内だ けで、社会人になればそう いった時間もあまり無い と思います。2、3年生と もなると学生生活にも慣 れ、時間に余裕ができる と思います。そういった時間 を勉強はもうほんのひと ぱいとやサークルといっ た今しかできない自分の やりたいことに使うと良 いと思います。

Interview

工学研究科 電気工学専攻修士1年 永井良英

世間では学部卒業後、企業に就職する人や公務員になる人など様々である。理工系総合大学である本学は、他大学に比べて学生の大学院への進学率が高い。大学院と大学はどう違うのか知らない学生も多いと思われる。では、大学院とはいつたいどのようなところなのか。本やインターネットで探さなくても皆さんの情報は得られるが、実際に大学院に進んでいる先輩に直接話を聞くことは大学院の実情を知る上でとても効果的な方法である。そこで今回は本学工学部第一部電気工学科卒業後、本学大学院に進学された工学研究科電気工学専攻修士1年の永井良英さんに、取材を行った。



▲取材に協力していただいた永井さん